令和四年度　第一回例会

観世流

緑泉会

令和四年
五月七日（土）
午後一時開演
喜多六平太記念能楽堂

「忠度」シテ　中所宜夫（撮影 駒井壮介）

「百萬」シテ　津村禮次郎（撮影 吉越スタジオ）

能 Noh ……忠度 Tadanori ……津村禮次郎

狂言 Kyougen …瓜盗人 Urinusubito ……三宅近成

能 Noh ……百萬 Hyakuman ……河井美紀

令和四年度　第一回　例会　番組

能　忠度

薩摩守忠度　津村 禮次郎
旅僧　殿田 謙吉
里人　髙澤 祐介
後見　墨 敬子　中所 宜夫
大鼓　柿原 光博　小鼓　飯田 清一
笛　栗林 祐輔
地謡　石井 寛人　新井 麻衣子　吉留 敬高　中森 健之介　桑田 貴志　永島 充　奥川 恒治　佐久間 二郎

【休憩十五分】

狂言　瓜盗人

瓜盗人　三宅 近成
畑主　三宅 右近
後見　前田 晃一
養老　墨 敬子
仕舞　草子洗小町　杉澤 陽子
鵜飼　中所 宜夫
地謡　筒井 陽子　桑田 貴志　坂 真太郎　中森 健之介

【休憩十分】

能　百萬

百萬ノ子　新井 弘舜
狂女百萬　河井 美紀
里人　則久 英志
釈迦堂門前ノ者　三宅 右矩
後見　新井 麻衣子　永島 充
大鼓　國川 純　太鼓　林 雄一郎
小鼓　幸 正昭　笛　小野寺 竜一
地謡　筒井 陽子　杉澤 陽子　石井 寛人　中森 貫太　藤村 答　中所 宜夫　坂 真太郎　佐久間 二郎

附祝言

【終了予定　午後四時三十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

能…忠度（ただのり）

薩摩守忠度は、平清盛の四男、熊野育ちで武勇に秀れ、和歌を藤原俊成（「としなり」とも）に学んだ。

供を引き連れた旅の僧（ワキ）は、「咲く花を憂きものと思い捨ててしまえば、月にかかる雲も厭うに及ばない」と胸中を述べるが、この人はもと俊成の家の人。西国行脚にも歌枕の地を訪ねつつ須磨の浦に至る。すると杖を突きつつ山路を老人（前シテ）がやって来る。汐を汲み、その塩を焼く薪を集めている。かつて都の風流人が淋しさゆえに尊んだ須磨の浦だが、漁をする小舟も塩焼の煙も松吹く風も、どれも淋しくないものはない。またこの山陰に咲く一本の桜のもとで亡くなった人がいるので、薪に花を折り添えて、手向けをして通っている。僧と老人は言葉を交し、名所の趣きを味わい尽くす。浦風を直に受けて桜が散る。日暮れになり僧は宿を乞うが、老人は「行き暮れて木の下蔭を宿とせば花や今宵の主ならまし」という歌を引き、花の下を宿とするよう勧める。さらにこの桜がこの歌を詠んだ薩摩守忠度の標の木だと教えて供養を乞う。手向けを喜ぶ老人を訝しむ僧に、「あなたに弔ってもらおうとここまで来たのです」と語り、老人は姿を消す。

やって来た里人（間狂言）に土地の言い伝えを聞き、夜を過ごしていると、夢に忠度（後シテ）が現れる。俊成に託した歌が勅撰の千載集に入れられたにもかかわらず、朝敵ゆえに「読人知らず」とされたことを嘆き、俊成の子の定家に作者を付けるよう頼んで欲しいと僧に訴える。忠度は、都落ちの時の俊成との経緯に続き、「一の谷の合戦で岡部六弥太に討たれた有様を物語り、最後に供養を頼んで「木蔭を旅の宿とせば花こそ主」の歌を残し姿を消す。

狂言…瓜盗人（うりぬすびと）

畑主（アド）は実った瓜が盗まれないように案山子を作るが、やってきた盗人（シテ）には全く効果がない。翌日、案山子に化けて待っていると、盗人はまたやって来る。

仕舞…養老（ようろう）

養老の滝壷から薬の水を得たと聞き、現地を訪ねた勅使の前に、山神が現れる。山神は君臣相和す良き御代が万歳に続くことを言祝ぐ。

仕舞…草子洗小町（そうしあらいこまち）

歌合せに不正をした大伴黒主を、同じ和歌の道に心を尽くす者として許した小野小町。勅命により小町は和歌の道の実り多きを祝い舞う。

仕舞…鵜飼（キリ）（うかい）

閻魔大王は、本来地獄に沈むはずの漁師を救うために現れる。それは、漁師が尊い僧との縁から法華経の功力を得たためであった。

能…百萬（ひゃくまん）

男（ワキ）と子供（子方）が嵯峨の清涼寺に向かっている。この子は迷い子となっていたのを男が保護しているらしい。嵯峨で大念仏があると言うので、仏力に縋ろうと出かけて行く。門前の人（間狂言）に訊ねると百萬と言う狂女が踊り念仏を面白く舞うと言うので、これを見ることにする。彼のぎこちない踊り念仏を咎めるように、狂女百萬（シテ）が現れ、音頭を取って舞い始める。最初は車に乗って囃し立てる車念仏、やがて親子の絆に繋がれて成仏出来ない憂さを払うように車を降りて舞う様を見れば、髪は乱れ、着物の裾を結び上げたあられも無い姿。でもこれも別れた我が子に会いたい一心のことと、釈迦如来に祈りを捧げる。

その時子供が突然男に向かい、狂女を故郷の母だと言う。確かめて欲しいと請われ、男は女と言葉を交わし、狂女は自らの境涯を謡い込んだ法楽の舞を舞う。「こうして私が舞うのは我が子に会うため。翻す袖は会うという名前を持つ鸚鵡の袖。この百萬は我が子の無事を祈るのです」と舞い始める。辛い暮らしだった故郷から救い出してくれるかと思えた男も直ぐ亡くなってしまい、その忘れ形見の子を西大寺近くで見失ってしまった。奈良の都からこの嵯峨野の寺まで探しながらやって来て、その賑いといい三国伝来の仏像といい、その有難さに縋るのだけれど、仏でさえ御母の摩耶夫人との別れを悲しんだのに、何故我が子はこの母を悲しまぬのかと、子を恨んだり我が身を悲しんだり、心が乱れてならない。それにしても我が子が恋しいと、自分を取り囲む群集の中に我が子を探すが見つからない。南無阿弥陀仏とひたすら繰り返すが、ついに泣き伏してしまう。

男はついに見かねて、連れの子供を引き会わせる。興奮状態の百萬は何故早く名乗らないのかと怒るが、思い直して生き別れた子供に再会する稀有な僥倖を喜び、仏縁に感謝して都に帰る。

2022.
5.7（土）PM1:00（開場 12:00）
喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9
☎ 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩７分
香港園手前の道を左折し約 400m 直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※ 駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

入場料

会員券（年4回）	一般 20,000円	学生 10,000円
1回券（当日券）	一般 6,000円	学生 3,000円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

津村 禮次郎	TEL	042-386-2131
	FAX	042-386-2132
河井 美紀	TEL	050-7129-2077

令和4年度 第2回例会 7月2日（土）

舞囃子…松　風 Matsukaze …… 杉澤　陽子
舞囃子…女郎花 Ominameshi … 墨　敬子
能……海　士 Ama…… 新井 麻衣子